

## 第4回:おもてなしの点前

教場長 田中仙融

近年、教場で指導したり、いろいろな支部に研修に伺ったりと、皆さんのお点前を拝見する機会が増えました。どなたも一生懸命になさっていて、「上手になりたい」、「会得したい」という気持ちが伝わってきます。茶会に伺ったり、自分で席主を務めさせていただく機会も増え、研修の時と同じように真面目に点前をされている姿を拝見します。

しかし、あるとき、不思議に思いました。なぜなら、皆さんがお稽古場と同じ表情をなさっているのです。「間違えてはいけない」と思って、一生懸命に点前をされているように見え、点前をして茶を点てる向こう側のお客様の顔を見ていないように思えるのです。

また、お給仕をするときも同じように、間違えないようにと真剣に運んでいるため、怖い顔に見えてしまいます。「笑顔でね」と申し上げると、「不真面目ではないですか？」という言葉が返ってきました。にこやかに笑みをたたえることは、不真面目な事ではありません。大切な方にプレゼントをするときに、微笑みを絶やさずに物を渡すのと同じことです。

茶会での給仕や点前では、「おいしいお茶を差し上げたい」、「茶席に入った時間をゆったりと過ごしていただきたい」、「緊張なさらずに召し上がっていただきたい」という気持ちを大切にしていきたいと思っています。

そのためにも、点前の際には道具ばかりを見つめるのではなく、視野の中にお客様の姿が入るくらいに視線を上げてみませんか。お茶を運ぶときには、おいしいお茶を冷めないうちに、茶碗を通してお客様を感じながら、にこやかに運んでみませんか。

口元を少しにこやかにして笑顔で茶席を過ごすとお客様の緊張もほぐれるというものです。大日本茶道学会の良いところは真面目な所ですが、真面目すぎて、お客様に要らない緊張を与えては元も子もありません。今年は皆さんで、にこやかに点前をしてみませんか。